

感染制御室だより on-line

こども医療センター感染制御室から、感染対策に関する情報を「感染制御室だより on-line」として年 4 回の配信を始めました。医療関係者ではなくても分かりやすい内容になっているので、ぜひご活用ください。



患者さんのご紹介について

原則として15歳中学生までのお子さん対象になります。

神奈川県立こども医療センターは、紹介・予約制で診療をしています。

ご紹介・ご予約方法について

地域医療連携室宛てに、診療情報提供書（紹介状）を郵送してください。
（画像 CD がある場合は同封してください）

内容を医師が確認し、受診日を設定させていただきます。

受診連絡票（受診日のお知らせ）を患者さんご家族と紹介元医療機関へ郵送します。
診療情報提供書の書式は自由ですが、専用ハガキ・封筒もあるのでご利用ください。



かながわこども医療ネット

（株）富士通 HumanBridge を利用して、こども医療センター電子カルテ情報の一部を確認できます。

診療情報の提供



【当センターフォロー中の患者さんの急患受診】

必要に応じて**医師から当センター担当医宛に電話でご連絡ください**。医師からの連絡が難しい場合は、患者さんから直接担当医に電話連絡をお願いします。



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構
神奈川県立こども医療センター

2026年7月

VOL.60

登録医療機関数

982件

<2026.6現在 実数>

地域医療連携室だより

地域連携・家族支援局紹介

地域連携・家族支援局長 高増 哲也

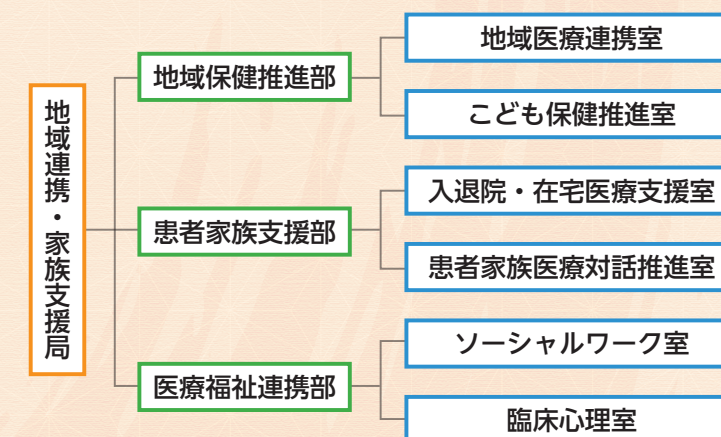


私たちの病院の正面玄関には、こどもたちにも読めるようにひらがなで、「わたしたちのちかい」を掲示しています。あなたの「げんき」と「えがお」のために、みんなでちからをあわせます。とても大切なことばです。そして、当たり前のようであり、実際には決して簡単でないことでもあります。みんなでというのはセンターのスタッフのみんな、でもありますが、医療や行政など幅広く連携しながら進めるということでもあります。地域連携・家族支援局は、患者さんご家族の療養と生活に関わるさまざまな支援を多職種で行っています。また、地域医療機関との連携、行政機関との連携を行っています。さらに、保健・福祉・医療の充実のために情報の収集や提供を行っています。

地域連携・家族支援局は今年から組織の改編が行われ（図）、2部4室から3部6室に拡充されました。地域医療連携室は、地域医療機関からの診療予約（前方連携）、地域医療支援業務（診療情報返書業務、地域医療機関向け研修）、地域医療支援運営委員会の事務局などを担当しています。こども保健推進室（旧：母子保健推進室）は、地域保健行政との連携、養育支援業務、各種家族教室などの開催事務局、成人移行期支援センター事務局、患者相談窓口の運営、横浜市・川崎市小児慢性特定疾病自立支援事業、神奈川県小児保健協会事務局を担当しています。入退院・在宅医療支援室（旧：退院・在宅医療支援室）は、病病・病診連携（後方連携）、退院調整、在宅医療支援業務、神奈川県小児等在宅医療連携拠点事業、かながわ医療的ケア児支援センターアドバイザー契約業務、在宅医療審査会・長期入院検討部会事務局、入院サポートセンター運営を担当しています。患者家族医療対話推進室は、患者家族との対話における支援（メディエーター協働）を担当しています。ソーシャルワーク室（旧：医療福祉相談室）は、病病・病診連携（後方連携）、入退院支援、患者・家族相談対応業務、神奈川県小児虐待防止医療ネットワークを担当しています。臨床心理室は、患者・家族の心理相談対応、子どもの心のケアネットワークを担当しています。

わたしたちの人体がいくつもの器官系の連携で成立しているように、病院も多く組織が連携することで機能を発揮することができます。みなさまとの協働が円滑に進みますように、みなさまからのご提案がありましたら、ぜひお寄せいただければありがたいです。

図：地域連携・家族支援局の組織図



こども医療センターはどんなところ「診療科紹介」

腎臓内科

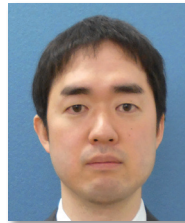
松村 壮史先生に夜尿症外来についてお聞きしました。

おねしょで困っているお子さんを生活面・身体面から丁寧に評価します。

夜尿症は、年齢とともに自然に改善することもあります。本人やご家族にとっては大きな負担になることがあります。当院では、2026年4月より夜尿症外来を開始しました。

当院の夜尿症外来では、詳しい問診をもとに、夜尿の期間や程度、生活習慣、日中の排尿の様子、便秘の影響、必要に応じた超音波検査などを組み合わせて評価します。治療をすぐに始めるだけでなく、「何に困っているのか」「生活指導で改善できることはないのか」「薬物療法やアラーム療法など、どの治療が合っているのか」を一緒に考えていきます。

地域の先生方で診療を継続できるお子さんも多くいらっしゃいますが、治療に難渋する場合、日中の尿漏れを伴う場合、詳しい評価が必要と考えられる場合には、ぜひご相談ください。



Q1 どのような患者さんを紹介すればよいですか？

5歳以上で夜尿に悩んでいるお子さんが主な対象です。夜尿症は一般的に5歳以上で考えるため、5歳未満のお子さんでは、まず経過をみながら生活面の確認を行うことが多くなります。ただし、5歳未満でも日中の尿漏れがある場合は、夜尿だけの場合とは異なり、早めの評価が必要になることがあります。必要に応じて泌尿器科とも連携しながら診療します。

Q2 初診ではどのようなことをしますか？

ご紹介いただいた後、地域連携を通じて、ご家族に詳しい問診票をお送りします。ご自宅で記入していただき、初診ではその内容をもとに、困っていること、夜尿の頻度や量、日中の排尿の様子、生活習慣、便秘の有無などを丁寧に確認します。

診察では、身体診察に加えて、必要に応じて超音波検査を行います。初診は「すぐ薬を出す」だけではなく、生活指導で改善できる点がないか、どのような治療方針がよいかを整理する外来です。



ご紹介の目安

次のようなお子さんはご紹介をご検討ください。

- 5歳以上で夜尿が続き、本人またはご家族が困っている
- 生活指導や薬物療法を行っても改善が乏しい
- 日中の尿漏れを伴う
- 便秘や排尿習慣など、背景因子の評価が必要と考えられる
- アラーム療法など、治療選択肢について相談したい

診療について

夜尿症外来は、じっくりお話を伺いながら進める外来です。現時点では、初診・再診ともに**火曜日午前**の外来としてご案内しています。

地域の先生方と連携しながら、お子さんとご家族の負担を少しでも軽くできる診療を目指しています。気になる患者さんがいらっしゃいましたら、地域医療連携室を通じてご相談ください。

Q3 夜尿症外来の特徴は何ですか？

当院の特徴は、時間をかけた問診と評価、超音波検査、必要時の泌尿器科連携です。

夜尿の背景には、ホルモンの日内変動、睡眠、夜間の膀胱の蓄尿能力の低下、夕方以降の水分摂取、便秘などさまざまな要因が関係します。外来では、生活スタイルを詳しく伺い、改善できる点を一緒に探します。

また、すでにミニリンメルトなどの薬物治療を始めているものの十分な効果が得られない場合には、治療内容の見直しや、アラーム療法を含めた選択肢についても相談できます。

生活指導・薬・アラーム療法などを相談します



Q4 通院はどのくらい必要ですか？

夜尿症の治療は、数回の受診ですぐに終了する場合もありますが、一般的には改善までに時間がかかることがあります。目安として、**1年から2年程度の経過**でみていく可能性があります。

治療により症状が落ち着き、薬の継続だけで安定している場合などは、地域の先生方に再び診療をお願いすることも検討します。当院では、必要な評価や治療方針の整理を行い、地域の医療機関と連携しながら診療を進めていきます。

今、知っておきたい小児医療の新常識

抗原特異的IgE検査について — 検査結果を正しく理解するために —



アレルギー科部長
犬尾 千聡

抗原特異的IgE検査は、血液中に「ある物質に反応するIgE抗体」があるかどうかを調べる検査です。スギ・ヒノキ・ダニなどの吸入抗原から、卵・牛乳・小麦・ピーナッツ・くるみなどの食物まで、さまざまな抗原を調べられます。

Q1 検査の意味をどのように解釈すれば良いですか？

アレルギー検査は感度が高くて特異度が低い検査です。検査の値が高ければ高いほどアレルギーの確率が高くなるのですが、あくまで症状と検査を組み合わせて判定することが大事です。

春先に鼻水や目のかゆみがあり、スギの抗原特異的IgEが陽性であれば、スギ花粉症を考えやすくなります。また、通年性の鼻炎症状があり、ダニの抗原特異的IgEが陽性であれば、ダニアレルギーが原因の一つとして考えられます。

しかし、陽性というだけでは「アレルギー」とは診断できません。この検査でわかるのは「感作（その物質に反応しやすい状態）があるかどうか」までで、実際に症状が出るかどうかは別に考える必要があります。特に食物では、陽性でもふつうに食べられることがよくあるので、注意が必要です。

Q2 コンポーネント検査とは何ですか？

コンポーネント検査は、食物そのものではなく、その中に含まれる特定のタンパク質成分に対するIgEを調べる検査です。通常の特異的IgE検査よりも、症状との関連を見きわめやすい場合があります。

代表的なものに、卵のオボムコイド、牛乳のカゼイン、小麦のω-5グリアジン、ピーナッツのAra h 2、くるみのJug r 1、カシューナッツのAna o 3などがあります。ただし、これも単独で診断を決めるものではなく、症状や摂取状況と合わせて判断します。



総合的に判断

おわりに

ドロップスクリーンなどの抗原特異的IgE検査で食物の項目がいくつも陽性になると、ご家族が「何を食べさせてよいかわからない」と不安になることがあります。検査結果だけで判断せず、これまで食べてきたものや症状と照らし合わせて、ひとつずつ整理していくことが大切です。すでに症状なく食べられているものは、IgEが陽性でも除去する必要はありません。

神奈川県立こども医療センター アレルギー科では、地域の先生方と連携し、不要な除去をできるだけ避けて、安全に食べられる範囲を広げるお手伝いをしています。「IgE検査で陽性が出てしまって…」といったご紹介も歓迎しております。判断に迷われたときは、どうぞお気軽にご相談ください。